ＴＩＣＯニュースレター　2005年9月発行

Face to Face NO.5

特定非営利活動法人ＴＩＣＯ

カルブウエ地区参加型農村開発プロジェクト　国際開発救援財団(FIDR)助成事業

詳細はP.3～4

待望のドリップイリゲーションが稼働

トマトの苗の植え付け

【担当者から】

７月中旬待ちに待ったドリップイリゲーション導入作業が完了しました。６月初旬に導入された太陽光発電ポンプは水を順調にドリップイリゲーションへと供給しています。人力で何時間もかけてタンクを満たし、さらにバケツで水を撒く重労働から開放されたのです。

ここに至るまで一筋縄で行きませんでしたが、これで終わりではありません。本番はこれからです。短い時間且つ少ない労力で水へのアクセスは保証されましたが、どう活用していくか。収穫が予想される２００５年１１月頃の市場動向や乾季雨季での栽培難易度等を考慮し野菜を選択栽培しなくてはなりません。

マーケット確保も大きなチャレンジです。農民たちは誰もが「ルサカでなら売れる」と言います。ある意味事実ですが、安い売値でガソリン使用も非効率では利益があがりません。ルサカは２００万都市とも言われ、当然売り先も一つではありません。始めはＴＩＣＯがマーケットを開拓する方法も選択肢ですが、自分たちで探す術を持たなければ野菜を腐らせるだけでしょう。近隣地域「食の安全」へ貢献の為、売って儲けるに止まらずザンビア人が常食とする野菜も栽培しなくてはなりません。自分たちさえ向上すれば良いわけではありません。

プロジェクトは少しずつ前に進んでいます。数種類の野菜を、規模を拡大して生産する基盤は完成しました。野菜作りの基本は教室で学びました。これから実践で努力が形になって現れる時です。その暁には次へのステップ（菜園拡大や有機農業を睨んだ養鶏養豚など）が、見えることでしょう。楽しみです。

＜主な記事＞

- ***「カルブウエ地区参加型農村開発プロジェクト」ドリップイリゲーションが稼働***
- ***チペンビプロジェクト情報***
  小規模開発ローン ・ アグロフォレストリー ・ ディップタンク
- ***コミュニティースクールへ机と椅子を寄贈***
- ***9月の地球人カレッジのお知らせ***

TICO（ティコ）は保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っているNGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993 年に任意団体として設立、2004 年９月に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）となり活動を続けています。
地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

石油依存文明からの持続可能な文明への転換を

～　石油枯渇まで秒読み　～

ＴＩＣＯ代表　吉田　修

石油価格の高騰が続いている。限られた資源を大量消費し続けているのだから、いつか枯渇するのは当然であり、なくなる前には価格は高騰する。

これまで先進国が使いたいだけ使ってきた。それを追いかけて中国などの近年急激に経済成長を遂げつつある国々が、大量の石油を必要としている。アメリカは、武力をもって中東の石油を支配しようとしているようにも見える。

この現在の「地域間の分配」の問題も重要であるが、もっと重大な問題は、「世代間の分配」子孫の資源を食いつぶし温暖化を招いたということである。孫、ひ孫の世代から非難されることは間違いない。しかも、今後最大の努力をしても手遅れである可能性が高い。

これからの生活はどうなるであろうか。電気、調理、風呂焚き、暖房、自動車の燃料などはもちろん、ほとんどの製品の製造過程で石油が使われている。今のところ石油なしの生活は想像もできない。しかし、できるところから少しでも備えなければならない。

ソーラー、風力、バイオガス、小規模水力発電、薪、炭の利用＋森林の適正管理、できるだけ自動車に乗らない、低燃費車の導入、自転車利用、地産地消（近くで取れたものを消費する）過剰包装をなくすなどなど

＊アフリカの貧しい人々はまさに石油に頼らない生活を実践している。結局生き残るのは彼らかもしれない。

さくら診療所の太陽光発電装置（30Kwh）

表のザンビア、裏のザンビア

ＳＣＤＰインターン　山田絵美

２００４年９月、ザンビア・ルサカにＴＩＣＯ姉妹団体ＳＣＤＰインターンとして着任した。空港からの道は日本の建設会社によって作られた立派な道路が走っている。そして私の住む場所にも生活に必要なものは全てそろっていた。望めばなんでも手に入るルサカ。ルサカにいるとザンビアが最貧国であることをすっかり忘れてしまう。

ある日、ＴＩＣＯザンビア事務所のスタッフが農村開発プロジェクトサイトに連れて行って下さった。事務所から車で小一時間ほどの距離だが、そこには電気のない生活があった。舗装されていないガタガタ道、水を求めて遠くまで歩く子供達、乾ききった大地。日本人のイメージする「アフリカ」がそこにはあった。

１年間考え続けたことは「何が真実か」ということ。人はつい耳に入ってくる情報と目に見える映像だけで物事を判断してしまいがちだ。一歩足を踏み入れてみる、少し視野を広げてみる、先入観を排除する。そうすることで真実が見えてきた。ＨＩＶ/エイズ、貧困、多発する事故・犯罪。ザンビアには沢山の犠牲や苦しみが存在する。事実は、それだけでなく、ここはとても美しく優しい国なのであるということを覚えていたい。

WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所　江橋裕人

WAHE（ワヘ）とは？
Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウエに決定した。

ザンビア共和国

カルブウエ

菜園プロジェクト

ソーラーパワーによるポンプを設置し、ドリップイリゲーションシステム（灌漑）を導入。農民に野菜栽培法などのセミナーを開催。いよいよ野菜作りが本格化。

6月7日（火）晴れ
ソーラーポンプシステム設置。太陽の力で水が来た。皆「水が出た！出た！」と大喜び。しかし、太陽が傾くと水は止まってしまった。しかたない。

6月10日（金）晴れ
本日は２つ目のタンクの配管工事。１万リッターのタンク（５千リッターが２つ）に水を貯められるのは心強い。

カルブウエ男性陣は蟻塚崩し、女性は開墾作業、日本人旅行者がボアホール周りにフェンス作りをお手伝い。

6月11日（土）晴れ
タンクスタンドが水の重さでゆがんだ。早急に補強が必要。５トンの水は重い。

6月17日（金）晴れ
ボアホール入りロドア取り付け。ドアフレームをはめてみると、やけに低い。オーダーしたサイズと違う。久しぶりに激怒。余った鉄棒をドアに溶接継ぎ足しをして、急場しのぎ。

ミーティング視察。女性陣に銀行残高を確認すると誰も知らない。自分たちのお金は把握してよ、とお願い。続いて今後の作付けプラン検討。遅々として進まずしゃしゃりでてしまった。ピーターとスルは、歪んだスタンド補強。予想より早く１時間ほどで完了。

6月28日（火）晴れ
ドリップイリゲーション敷設立会い。思ったほど進まず。３日間はかかりそう。

7月9日（土）晴れ
野菜作り技術移転ワークショップ。トピックはレコードキーピングとカレンブラ（サツマイモの葉）栽培。カレンブラは庶民の大切なおかずなので皆興味がある。

ワークショップ終了時に依頼されていた鍬１０本を届けて喜ばせようと思っていたら、勝手に解散されてしまった。

7月14日（木）晴れ
日本から届いた４０Ft コンテナと看板を移送。

コンテナは今後カルブウェにて倉庫及びポンプ監視小屋として使われる。

7月21日（木）晴れ
ドリップイリゲーション使用方法ワークショップ。水がどの程度出るか、ドリップ穴からどの程度カバーされるか、作物はどの間隔で植えるか、一日何時間水を出すか、肥料はどうするか、詰まった場合どうするか、フィルターの掃除方法など。

7月22日（金）晴れ

野菜作り技術移転ワークショップ。２０名の参加、もう少し来て欲しい。トピックはタマネギ。男性陣は全員ノートを取りながら話を聞く。熱心さは伝わってくる。

7月23日（土）晴れ

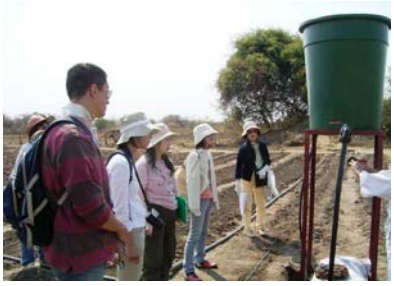
種肥料ケミカル等のリクエストを受けたので、届ける為に訪問。高い投資が実を結ぶことを祈る。全員とは言わずともかなりの数が参加して畑を耕し、種を蒔く準備にいそしんでいた。結果を期待したい。

7月30日（土）晴れ

野菜作り技術移転ワークショップ。本日は土質改善の為の石灰効用について。一般的知識だが、各々の家でも使えるし、大切にして欲しい。

8月10日（水）晴れ

本日はジャカランダ会（JICA関係者婦人の会）カルブウェ訪問。１５分ほど概要説明。熱心に聴いて下さる。菜園に移動。ボアホール、ソーラーパネル、タンク、ドリップイリゲーションシステム視察。私からは野菜売り込みをかける。日本人コミュニティーにしっかり売り込んでいきたい。



8月12日（金）晴れ

日本から到着した２ｔトラックの登録が終わり、本日、肥料を満載して、カルブウェの菜園まで運ぶ。

日本からの移送に関わった方に、「感謝」。

8月13日（土）晴れ

野菜作り技術移転ワークショップ。トピックはカリフラワー。２０名ほどの参加。ノートをほとんど取らない女性陣から覇気は感じられない。読み書きできない人間にどう伝えるのがベストか？

チペンビ

・農村開発ローン

小規模農村開発ローン

事業資金の無利子貸し付け・研修指導を行い、農民グループの小規模起業を支援する。日本人サポーターも同時に募集中。

6月1日（水）

CFC 校長サンバさん宅に無線設置。ルサカ事務所と２４時間交信ができ、より円滑なコミュニケーションとなろう。

Mr.ンジョブ訪問。カリケンカのワークショップ日程確認。

チレンガレサ訪問。油購入の為だったが、１０リットルの約束が２リットルくらいしかない。せっかくなので支援の意味も込めて買わせていただく。

ギルモア訪問。集金だったが、お金はできてないので集められない。２週間後と約束。

6月6日（月）

カリケンカ訪問。タックショップのマネージメント、レコードキーピングワークショップ。１０名のメンバーのうち８名参加は悪くはない。Mr.ンジョブは相変わらず上手。

6月8日（水）

チレンガレサ訪問。油購入。今後は他団体の支援が入るので距離を置くことになるが、時々訪問し油購入はする予定。

カサカ訪問。お礼状を受け取る。日本に送りたいが、鶏の病気が蔓延し、養鶏事業が開始できていない。

カリケンカワークショップ会場へ戻り、ワークショップ終了後、中古靴を、頑張ったご褒美にメンバーに分ける。予想外のプレゼントに喜んでくれた。

Mr.ンジョブからネットボールの支援の相談を受ける。コミ

ュニティーで女性チームを作って、週末に楽しんでいるらしい。たいした値段でもなかろうし、前向きに検討すると返答。

6月15日（水）

カリケンカ訪問。タックショップ品物購入打ち合わせ。しっかりリストを作り準備していた。

チレンガレサ訪問。支援の意味を込め食用油３リッター購入。

ギルモア訪問。約２週遅れで５月分徴収。最近ルーズになってきているので少したしなめる。

6月22日（水）

Mr.ンジョブ訪問。サングワポ養鶏ワークショップについて確認。７／６から３日間。カサカ養鶏は８月がベター（病気蔓延の為）。ここで**新規事業相談者が現れる**。鍛冶屋である。鉄板を買って、バケツや鍋を作り販売したいらしい。インタビューするがものすごく頼りない。なんとも不安。

カリケンカ訪問。２４日にルサカに来てもらい、一緒にショップ用買物をする相談。

6月29日（水）

カリケンカ訪問。２４日に買物した品物を運ぶ。大喜び。お礼状の用紙、リストも渡す。来週に契約書も交わして、ひとまず完了。

Mr.ンジョブ訪問。６月のカリケンカワークショップ報告書を受け取る。翌週のサングワポ養鶏ワークショップについて確認をすると、良くない話が。鶏小屋予定地（リーダーの家）の奥さんが反対しているらしい。

チレンガレサ訪問。油購入。

7月6日（水）

カリケンカ訪問。６月２４日購入物のリストと領収書コピーを渡す。店には品物が綺麗に陳列されていた。売り上げ記録もきちんしている。早速売り上げ金の中から塩５０キロ購入を要請される。砂糖・ローソクが売れ筋だそうだ。

Mr.ンジョブと協議。カサカ養鶏に関して、ニューキャッスル病も落ち着いてきたので GO サインが出る。８月には始めたい。

サングワポから支援断りの手紙を受け取る。

7月13日（水）

カリケンカへ購入依頼があった塩５０キロを届ける。支援者への手紙も受け取る。ここまでの支出入一覧も受け取る。きちんとやっているようで嬉しい。

Mr.ンジョブを路上で発見。一緒に**ギルモア**へ集金。幼稚園はうまくいっているようだが、親の支払いが悪いとの事。いつものこと。

チレンガレサ訪問。ひまわり油４リッター購入。

カサカ訪問。１０人のメンバーのうち５人がいなくなったので事業を止めたいと言う。そんないい加減なら TICO の支援はもうありえないね、と伝えた。ワークショップも行い、雛の予約までして勝手なことを言われるとがっかりくる。すると頑張ってみるとの返事。養鶏はカ仕事でないので５人でも十分に対応可能だ。

チティベ訪問（古着売りビジネス）。ほったらかしにしていた懺悔もこめて支援するつもりで訪問。Mr.ンジョブに通訳してもらいミーティング。ザンビア人を２年４ヶ月見てきた私の目にも、彼女たちがとても真剣に見えた。これだけほったらかされてもメンバーが変わらず真剣な眼差しでいてくれることは嬉しい誤算。TICO からの注文は、しっかりした店を確保すること（雨季でも商売する為に）。大丈夫なように思える。

CFC 校長の Mr.サンバさんに依頼されていた車椅子を渡す（日本から届いたもの）。相手が体調を崩しクリニックにいたのでそちらに届けた。車椅子は中古だが大変感謝される。

7月20日（水）

ギルモア訪問。スタディツアー一行が来ることを伝える

チレンガレサ訪問。同じくスタディツアーのことを伝える。ワークショップ用などに油購入。

カサカ訪問。１８日雛を届けるはずが、業者の不手際でキャンセルになり本日は餌だけ届ける。鶏小屋はきちんと準備されていた。やろうと思えばできるじゃないの！半分辞める気だったくせに。

カリケンカ訪問。記録もしっかり取っている。売上げも上々。できるだけ訪問して、励ましショップ系の成功例としたい。

8月17日（水）

Mr.ンジョブを拾って**カサカ訪問**。養鶏状況（雛が手に入りにくい）を説明したかったが担当者不在。

カリケンカ訪問。売り上げ記録もきちんとされているし、陳列状況も良し。統計は未確認だが、Ｍｒ.ンジョブ曰く売り上げも順調な模様。

8月24日（水）

Mr.ンジョブ訪問。７月分ギルモアとカリケンカ報告をもらう。**チティベ**はまだ古着売り場確保交渉中。これが進まないとワークショップもまだ。

Mr.ンジョブの所にチャムカスクールととある女性グループから支援要請があり訪問。

アグロフォレストリー

荒れ果て、やせ細った地力の回復のため、チペンビ農業大学と協力し、豆科の植物を植えることを農民に推奨し指導している。

6月22日（水）

クムウェンダ氏と農民訪問モニタリング。TICO の支援としてベルベットビーンズを買い取る予定なので、収穫状況を調べる。

6月29日（水）

モニタリング。４軒農家を回ってベルベットビーンズ等の収穫をチェック。順調とは思えず。

7月6日（水）晴れ

モニタリング。４，５軒回ったが、印象としては、かなり取り組む姿勢にばらつきがある。

7月16日（土）晴れ

ワークショップ参加。CFC の学生も含めて、約３０名の参加。プロジェクトの成果は？役に立ったか？問題は？改善点は？TICO に今後何を求めるか？を４つのグループに分けてディスカッションしグループ毎に発表。結果はほぼ予想通り。旱魃の影響でうまく行かなかった、種植え付けが遅かった等。リクエストは、多種にわたる種が欲しい、早く植えるため、早い時期に支援が欲しい、プロジェクト自体は歓迎するので今後も支援が欲しい、など。

私にも一言機会が与えられ、このプロジェクトをより多くの小規模農民に広めたい、皆さんが種を増やしたら隣人にも分けて欲しい、また、その経験を語って欲しいと話す。今後のＴＩＣＯからの支援は、リクエストされたように、メイズの種と肥料を農民に配ること、Velvet Beans を購入すると約束。

最後に農民代表より感謝の言葉。アグロフォレストリーの知識啓蒙、種の配布、モニタリング、このワークショップ、TICO、クムウェンダ、江橋にありがとう、との言葉。

8月17日（水）

クムウェンダさん訪問。Velvet beans 買い取り現金を渡す。新メンバーリクルートもされたようなのでワークショップを９月１０日に決定。

ディップタンク

壊れたまま放置されていた牛消毒用の薬浴漕（ディップタンク）の復活に取り組む。農民にとって牛は、大切な財産だ。

6月8日（水）

チルクツディップタンク訪問。薬浴液が無駄にならないよう傾斜に工夫がされていた。しかし、今日は誰もいない！どうしたことか。メンバー発見。水を加えていないので今週はできないとのこと。先週までやっていたし、来週は再開するという。

6月15日（水）

チルクツディップタンク訪問。今日はきちんとやっていた。大雑把だが採算ラインの３００は十分に越えて、４００～５００はやっていた模様。リーダーと雑談。近隣地域では牛が病気にやられているようだが、ディップタンク使用エリアは牛が健康に保たれている。昨年４月から病気で一頭も死んでない！これは素晴らしい。

Mr.テンボ訪問。カノンゴディップタンクの件を確認。７月に第三のディップタンク支援開始となろう。ディップタンク使用エリアを除いて、tick born disease が蔓延しているらしい。手前味噌だが、ディップタンクをやっていて良かったものだ。

6月22日（水）

チルクツディップタンク訪問。ここのディップタンクは特には問題なし。

6月29日（水）

Mr.テンボ訪問。カノンゴの話を聞く。レンガを自分達で焼き始めているとのこと。来週訪問することに。７月と８月で資材運搬、修復作業とワークショップ。９月稼働開始か。

7月6日（水）晴れ

カノンゴディップタンク訪問。牛を囲う為のフェンス用ポールが数十本集まっている。レンガ作りも進んでいる。メンバーも６０人（前回は３０人だった）、周辺の牛も７００頭になるとのこと（信憑性は薄い）。話半分に聞いてもそれなりの需要。Mr.テンボ曰く、このディップタンクは大き過ぎサイズダウンが必要。大がかりになる。毎週水曜日訪問して進行状況を見ながらセメントやワイヤなど必要資材を届ける予定。

7月20日（水）晴れ

カノンゴディップタンクへ。目に見えた進展はなかったが順調に作業してくれることを願う。

8月17日（水）

Mr.テンボを拾って**カノンゴディップタンク**へ。３週間前のテンボ指示通りきちんとやったのでセメント支給を約束。

8月24日（水）

Mr.テンボと**カノンゴ**へ。３０人以上集まっていた。昨日届けたセメント２０袋で当面は作業できるので、毎週水曜日に様子を伺う。

TICO 国内活動

（2005年6月～2005年8月）

＜２００５年６月＞

５日　四国ＮＧＯネットワーク主催「持続可能な開発のための教育の１０年・地域ミーティング in 徳島」へパネリストとして出席（吉田修代表）

７日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（福士庸二事務局長）

１８日　地球人カレッジ「野宿生活者～日本における避難民～」（大脇甲哉さん）
福岡・九州地区女性集会へ講師派遣（吉田修代表）

２２日　学島小学校へ講師派遣（福士庸二事務局長）

＜２００５年７月＞

５日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）

６日　学島小学校へ講師派遣（福士庸二事務局長）

１８～１９日　セカンドハンド（高松市）がＴＩＣＯと交流会（山川町にてカンボジア支援バザーも開催）

３０日　ザンビアスタディツアー開始

＜２００５年８月＞

７日　ザンビアスタディーツアー終了

８日　美郷地区学校保健委員会にて講演（吉田修代表）

９日　ＪＰＲ正井氏と今後の協力について協議

２７日　地球人カレッジ「途上国における協力；私の経験から～ーアフリカとーアジアの国で～」（小林一之さん）

Destiny Community Centreへ 机と椅子寄贈

Destiny Community Centreとは、ルサカ市の低所得者居住区（貧困地区）の一つであるマテロ地区にあり、孤児、その他社会的に弱い立場にある子供達への教育・保護および女性の職業訓練などを目的として設立されたばかりのコミュニティースクールです。現在は、小学校低学年クラス（生徒1年生～4年生約55人。先生は無償ボランティア2名。）と洋裁教室、栄養改善教室を行っています。

ＴＩＣＯは、代表を務めるピーターカウンダ氏から支援の要請を受け、彼の人柄と熱意を評価し、まず、最初の支援として机と椅子を寄贈致しました。今後は、活動の状況を見つつ洋裁教室用のミシン等の支援も検討しています。

9月の地球人カレッジのお知らせ

ザンビアとスリランカからの直訴

第１部　ザンビア共和国
首都を守る市民救急救助隊活動

講師：アンドレア・ステファンソン
（ザンビア地域警察救急救助隊管理委員会・委員長）

第２部　スリランカ
ゴール市での復興への取り組み

講師：ジャヤスリヤ医師
（スリランカ・ゴール市保健衛生部・部長）

9月17日（土）　午後７：００～９：００
（通常より３０分早めの開催となります）

◇　ところ：吉野川市山川町さくら診療所デイケア室
◇　参加費：無料
◇　予　約：不要

第１部

ＴＩＣＯは、神戸市消防局の有志が作るボランティア団体・日本国際救急救助技術支援会（ＪＰＲ）と共同で、アフリカのザンビアに、市民のための救急救助隊を整備するプロジェクトを６年以上実施してきました。アンドレアさんは、現地の警察救急救助隊の総責任者で、ＴＩＣＯとＪＰＲの頼りになるカウンターパートです。ザンビアから感謝の意を伝えるとともに、現在の活動状況を報告するために来日されます。

第２部

ジャヤスリヤ医師は、昨年１２月に発生したインドネシア沖地震の津波で大きな被害を受けた、スリランカ・ゴール市の衛生部長です。津波の状況はどうだったのか、そして、現在復興へ向けて奮闘中のゴール市民の取り組みや現状などを報告し、ＴＩＣＯとＪＰＲもその復興の活動に支援ができないか考察します。

ありがとうございました（敬称略）

★寄付をくださった方々★

高野理恵子　小川芙美香　唐住輝　さくら診療所募金箱　井上茂樹　福士庸二　五十嵐仁　江橋裕人　村上邦仁子　わらびの会　秋月忠助　宗本クニコ　美馬安子　セカンドハンド　美馬文子　寺口美香　鈴木一城　吉田修　あおぎワークホーム　大塚内科　境寛子　岩熊信子　坂梨由香　工藤智　松山美恵子　岩下晴美　菊地めぐみ　川瀬プイ　三好崇弘　川瀬淳一　宗本卓士　小林一之

★会費を継続して払ってくださった方々★

井原宏　浮森和美　大西和賀　岡崎明美　河合栄枝　酒巻栄子　佐古和雄・友美　篠原弘子　鈴木薫　住友和子　祖父江八重子　田尾佳代子　田岡敬子　武田律　地造津根子　寺口美香　入交秋子　橋本浩一　廣瀬文代　福井康雄　福井照実　福士庸二　福士美幸　中村純子　傍示桂子　松井美香　峰尾武　六車ハルエ　吉田修　吉見千代　太陽と緑の会福祉事業団　木村節子　能田千春

★新たに会員になってくださった方々★

大垣光治　田淵幸一郎　梅川昭子　三浦実

（2004年6月1日から2005年8月31日までの事務局入金分：順不同）

【TICOへの入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポートしてくださるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎号送付いたします。

【正会員】　12,000 円

【賛助会員】　個人：12,000 円　学生：6,000 円
団体：15,000 円

（通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

振込先：郵便振替口座　０１６４０－６－３７６４９

振込先加入者名：TICO

Ｅメールアドレスをお知らせいただいた方にはＴＩＣＯの各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

ＴＩＣＯの活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

セカンドハンドと交流

去る７月 18 日・19 日、NPO 法人セカンドハンドとその学生部「小指会」が、TICO 事務局があるさくら診療所の駐車所にて、「カンボジアに高校を建てよう！」を合言葉に、チャリティーバザーを行いました。夜は、ＢＢＱで両団体のスタッフが集い交流会が行われ、互いの活動紹介や苦労話など、時間が過ぎるのも忘れ深夜まで、有意義な時間となりました。

お知らせ

●講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはＴＩＣＯ事務局まで。

●チペンピ農村開発ローン支援者募集

事業 No.８タックショップ（カリケンカクラブ）支援金一口 5000 円。各グループから支援者の方に定期的に手紙が届きます。

ＴＩＣＯホームページで TICO からの最新情報をご覧いただけます！！

http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/

個人情報の保護について

ＴＩＣＯは、個人情報について、ニュースレターの発送、各種イベント及び会費の案内以外には利用しないようにいたします。

募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています

（事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい）

郵便振替口座　０１６４０－６－３７６４９　　振込先加入者名：TICO

TICO ニュースレター Face to Face 第５号 2005年９月発行　　発行人：吉田　修　　編集担当：福士　庸二

【TICO 事務局連絡先】
〒779-3403　徳島県吉野川市山川町前川 212－6　　電話：090-7786-3193　/ ＦＡＸ：0883－42－5527
TICO ホームページ：http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/　　e-mail：zikomo@nmt.ne.jp